

みんなが暮らしやすい熊本へのアクション 地域で一步を踏み出した女性たち

安心して暮らせる地域をつくりたい。そんな願いを胸に、熊本では防災や交流イベント、居場所づくりなど、地域の課題に向き合い行動を始めた女性たちがいます。今回は、市民編集員がその思いや活動取材し、暮らしやすい地域づくりのヒントを探りました。

古川久仁子さん



人と人がつながり、 災害から命を守れる場をつくりたい

子ども地域食堂「まんまる」代表／中島校区消防団女性班班長

1969年生まれ。熊本市中島校区出身。熊本地震をきっかけに子ども地域食堂「まんまる」を立ち上げる。その後、地域防災により深く関わるため2022年4月に消防団に入団。女性班の班長として防災講座や見守り活動などに取り組み、日々の暮らしの中で「防災」と「つながり」の大切さを伝え続けている。



顔が見える関係づくりの
大切さ気付く

「子ども地域食堂を始めたき
っかけは？」

熊本地震のとき、同じアパートの1階に住む高齢のご夫婦が「他人に迷惑をかけたくない」「もし潰れて死んでも、それは自分たちの選択という理由で、避難所に行かずに残っておられました。「命の選択」を迫られる現実には大きな衝撃を受け、「顔の見える関係」が必要だと強く感じたのです。「人が自然と集まる場をつくる」と地震から間もなく、子ども地域食堂「まんまる」を立ち上げました。子どもから高齢者が集う「みんなの居場所」になっていきます。

地域とともに学び
防災力を高め合う

「消防団員としても活動しているのですね。」

私も女性消防団員として何
ができることがあるのではと



思い入団しました。男女関係なく地域を守る力をみんなが高めていけたらと、定期的に勉強会を開いています。能登半島地震のテレビ報道で、来日中の外国の方が避難所での情報収集に苦労したことや、津波が来てもどこに逃げていいかわからなかったことなどを知りました。その出来事から、日頃から顔を合わせて交流しておくことの大切さを感じ、中島校区に住む外国人と地域の方との交流会を開催しました。外国人技能実習生の受け入れ先に声を掛け、回覧板でもお知らせしたところ、当日は11人の技能実習生とその雇用主、さらに地域住民を合わせて約80人の方が参加してくれました。予想以上の大きな反響に、地域

の人たちが自然と助け合い、つながりあえる優しさを感じました。

横に広く、
強いつながりをつくる

「今後の目標は？」

人と関わり、助け合いながら横のつながりを広げ、地域に深く根ざした活動をしていきたいです。顔を合わせ、声を掛け合える関係は、日々の暮らしだけでなく、いざという時の防災力にもつながります。これからも中島校区が、誰もが暮らしやすい温かい場所であり続けるよう、私にできることを重ねていきたいです。

取材：市民編集員 中津海麻紀さん

古川さんからのメッセージ

「やりたい」という思いを勇気を持って話してみてください。きっとそばに共感してくれる人がいるはずです。人から言われて始めたことは長続きしにくいものですが、自分の意志で始めたことなら続けられます。そして継続していくためには、活動を次のにつなげてくれる仲間をつくることも大切です。

熊本ってホントに暮らしやすい？

いろんな立場の人の視点で考える地域の課題

自分たちが住む地域の「暮らしやすさ」って何でしょう？ 地域で、家庭で、職場で私たちが自分らしく生きるには、どんな環境が必要なのでしょう。

今回の特集では、移住・Uターン経験者へのアンケートを基に見えてきた「熊本の現状」と、熊本が暮らしやすくなるために挑戦を続ける女性たちに活動のきっかけや原動力についてお話を聞きました。

県外からの移住者にアンケートを実施！

男性10人、女性15人が回答

暮らしにくいと思う

- ・車がなければ生活できない
- ・最低賃金が低い
- ・女性が男性を立てるべきという雰囲気を感じて苦手

暮らしやすいと思う

- ・すぐに温泉や山、海などに行ける
- ・水や野菜、魚が新鮮でおいしい
- ・街がコンパクトでなんでもそろ
- ・子連れに優しい、人が温かい

こんな声も／

デジタル化が進むとうれしい！

熊本は自然が豊かで、都会の緊張感がなく住みやすいです。しかし、デジタル化が遅れている面があり、情報の取得や行政手続きなどで不便を感じることもあります。

きゅうけいふん 邱桂芳さん(50代・女性/台湾から移住して12年)



男性を立てる文化に戸惑い

夫の転勤で熊本に移住しましたが、「男の人を立てる」文化には戸惑うことが多かったです。例えば、夫婦で一緒に接客を受けている際、私が質問しているのに、店員さんが夫にだけ答える、といったことを経験。また、家事や育児に非協力的な男性に対する女性の「いつまでも子どもだからしかたない」と受け入れていることにも驚かされました。

Aさん(40代・女性/広島から移住して5年)



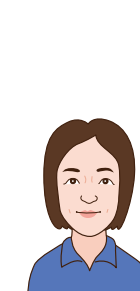
どちらとも
いえない

もっといろんな人が
地域や自治会に参画
しやすくなるといいですね

意見やアイデアを
言う勇気を持つことが大事

暮らしやすい
熊本のヒント

アンケートを基に
市民編集員が考えた



市民編集員
中津海 麻紀さん



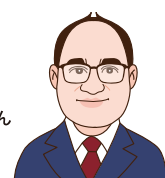
市民編集員
徳永 邦子さん



市民編集員
貴田 雄介さん



市民編集員
江口 香奈美さん



市民編集員
高智穂 太郎さん

- ジェンダー問題については40年くらい前から変わっていないですね。
- 次の世代に「男性は外で仕事、女性は家庭を守る」などの古い風習を伝えていかないという意識を持っていたいです。
- 夫婦、家族で話し合うことも大事だと思います。
- 若い人たちがもっと政治を学ぶ機会が増えるといいですね。